

# 考研日语 **橙** 宝书

真题详解及模拟题

肖博涵 著



# 考研日语橙宝书

## 真题详解及模拟试题

肖博涵 著

世界图书出版公司

北京·广州·上海·西安

## 图书在版编目 ( C I P ) 数据

考研日语橙宝书: 真题详解及模拟试题 / 肖博涵著. — 北京: 世界图书出版有限公司北京分公司, 2017.10

ISBN 978-7-5100-8298-6

I. ①考… II. ①肖… III. ①日语—研究生—入学考试—题解 IV. ① H360.421-44

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2017) 第 211771 号

---

书 名 考研日语橙宝书: 真题详解及模拟试题  
 KAOYAN RIYU CHENGBAOSHU

著 者 肖博涵  
责任编辑 刘小芬 杨晓琳

出版发行 世界图书出版有限公司北京分公司  
地 址 北京市东城区朝内大街 137 号  
邮 编 100010  
电 话 010-64038355 (发行) 64037380 (客服) 64033507 (总编室)  
网 址 <http://www.wpcbj.com.cn>  
邮 箱 [wpcbjst@vip.163.com](mailto:wpcbjst@vip.163.com)  
销 售 新华书店  
印 刷 大悦印务 (北京) 有限公司  
开 本 787 mm × 1092 mm 1/16  
印 张 29  
字 数 680 千字  
版 次 2017 年 10 月第 1 版  
印 次 2017 年 10 月第 1 次印刷  
国际书号 ISBN 978-7-5100-8298-6  
定 价 88.00 元

---

版权所有 翻印必究

(如发现印装质量问题, 请与本公司联系调换)

# 前言

在备考研究生入学考试的过程中，历年真题是最能直观体现考点分布、难度等级、变化趋势的复习材料，也是考生们最应重视的珍贵材料。可以毫不夸张地讲，得真题者得天下。每一年都会有考生因不会利用真题，复习效率低下，考点一错再错，最终功败垂成。

本书是我们七年教学研究经验的积累，是一本针对考研公共日语（203）的真题详解教材。针对考生存在的三大主流问题：语法、长难句辨析、作文，本书提出了有针对性的立体式解决方案，以帮助考生有效利用真题资源，深度挖掘考研日语的高频考点与做题技巧。

鉴于市面上同类书籍，本书的特点如下：

1. 逐题分析讲解：讲解≠翻译，以清晰的逻辑、科学的论证解题；
2. 语法精细辨析：穷举全部用法，经典例句，一目了然；
3. 真题全文翻译：所有文章均有全文翻译，阅读障碍一扫而光；
4. 精彩原创范文：中日优秀教师联合编写，更具生活感与时代感；
5. 高仿模拟试题：取材于日本最新文章，考点全面，难度适中；
6. 双册双彩印刷：题目+答案·解析·翻译，方便阅读；
7. 送全真答题卡：练习即实战，模拟考研现场情景。

由于时间与精力所限，模拟题的解析未刊于本书。若读者需要真题与模拟题的最新深度讲解，请参考我们相关课程。

最后感谢明王道日语网校王进老师、外教高桥樱老师、燕山大学日语系于韶华老师等对本书的指导。由于能力所限，书中难免存在纰漏，还请关注本书的老师、同学们不吝指正。相关问题可直接咨询新浪微博：@日语老师宵寒。





# 2005年全国硕士研究生入学统一考试日语试题

## I. 基礎知識 (20点)

次の文章を読んで、1~20の間に答えなさい。答えは選択肢[A][B][C][D]からもっとも適切なのを一つ選びなさい。

だれにも会いたくない。少しも口を利きたくない。( 1 )ただ一人でじっとしている。そういう気持ちのときがしばしばある。これは意気阻喪のときではなく、情意沈潜のときである。

わたしは純白か漆黒かの尾の長い猫【ア】なら、見当り【イ】次第何匹でも飼いたいと思っている。( 2 )、室内にとじこめられたペット用の外国産のものではなく、自由に戸外を駆け回る野性的な日本産種のほうがいい。尾の短いのは人工的でいけなく、尾の長い自然的なのが【ウ】最高だ。

( 3 )、何故に猫か。猫は飼養動物のうちでもっとも人間に近い生活をしている。屋内に人間と同居し、同じ食物を食べ、同じ寝具に眠る。用があり、( 4 )喉を鳴らしてすり寄って来るが、そうでなければ、呼んでも返事をせず、【エ】すまして他所( 5 )向いている。猫は人の顔色を読むと【オ】いわれているが、往々、もっともよく人間の顔色を無視する。そして庭の隅や、縁側の片端や、机上などに、ただじっと蹲って一人で夢想している。そうした夢想の中に、肉食獣としての本来の野性がある。【カ】猫のうちには馴服され( 6 )何物かが残っているとわたしには思える。

それを、わたしは自分のこととして感ずる。人に会いたくなく、口を利きたくなく、一人でじっとしているとき、その沈潜しているわたしの情意は、道徳的な習慣的な、換言すれば世間的な一般的なものであって、その底には、胸の( 7 )に潜む野性的なものが存在する。それは猫の馴服と同様に、人間の道徳や習慣では完全に覆うことのできない何物かが存在するのである。そしてその野性的な何物かの中にもっとも多くの芸術の萌芽がある。

芸術が一種の創造であるという要素は、この馴服されない野性的な深い何物かの上に建設される( 8 )にある。この建設のない場合、芸術は創造的要素を失い、生命力が【キ】希薄になる。

猫の野性は、その柔軟温順な外観から（ 9 ）ところに存在していて、こうした野性は内心的なものであって、猫の夢でもある。その内心的なものに対する驚異と恐怖とから、猫に関する伝説が生まれる。猫に関する迷信的伝説は道徳的な美の外側にあるものが多く、（ 10 ）それが報恩とか復讐とかいうことから発したものであったとしても、それは（ 11 ）独自の展開をなして、不思議な力を発揮する。

（ 1 ）～（ 11 ）に入れるのもっとも適切なのはどれか。

1. [A]そして            [B]ただし            [C]もともと            [D]とはいえ
2. [A]それで            [B]それが            [C]それも            [D]それを
3. [A]ようするに        [B]もちろん        [C]なぜなら            [D]ところで
4. [A]気が合えず        [B]気がすめば        [C]気が向けば        [D]気がきけば
5. [A]を                [B]に                [C]から                [D]へと
6. [A]きりない        [B]きれない        [C]きらない            [D]きない
7. [A]そこか            [B]なにか            [C]どれか            [D]どこか
8. [A]ゆえ              [B]もの              [C]ほう              [D]ところ
9. [A]すぐれた        [B]はなれた        [C]よごれた            [D]みだれた
10. [A]たとえ            [B]あえて            [C]もしも            [D]わずか
11. [A]ぞくぞく        [B]ずるずる        [C]たちまち            [D]そろそろ
12. 文中【ア】の「なら」と同じ使い方なのはどれか。  
[A]もう少し発見が早かったなら、助かったのに。  
[B]動物の切手なら、どんな切手でもほしい。  
[C]このまま不況が続くなら、失業問題は深刻になる。  
[D]ランス語はだめだが、英語ならすこし話せる。
13. 文中【イ】の「次第」と同じ使い方なのはどれか。  
[A]彼は外国人を見つけ次第、誰にでも話しかけようとする。  
[B]先日は失礼いたしました。深くお詫びする次第です。  
[C]目的が達成できるかどうかは、本人の努力次第です。  
[D]今度のテストの成績次第では、上のクラスに上がることもできます。
14. 文中【ウ】の「最高」と同じ意味になる「に限る」の使い方なのはどれか。  
[A]この席に座れるのは老人に限る。

- [B] 疲れたときは温泉に行くに限る。  
[C] このチケットでの入場は1枚1人に限る。  
[D] 当センターの施設の利用は本校の学生に限る。
15. 文中の【エ】の「すまして」と同じ使い方なのはどれか。  
[A] 耳をすまして、学長の話聞く。  
[B] 自分が悪いのに、すまして人のせいにする。  
[C] 急いで仕事をすましてパーティーに行く。  
[D] 心をすまして芸術を鑑賞する。
16. 文中【オ】の「いわれている」の「(ら)れる」と同じ使い方なのはどれか。  
[A] まっすぐ行けば、駅前に出られる。  
[B] 箱根は観光地としてよく知られている。  
[C] 写真を見ると、父のことが偲ばれてつい涙が出る。  
[D] 朝6時から練習を開始するから、起きられたら来てください。
17. 文中【カ】の「猫のうちには」に当たるのはどれか。  
[A] 猫の仲間には [B] 猫の身体には [C] 猫の内心には [D] 猫の巣には
18. 文中【キ】の「希薄」に当たるもっとも適切な解釈はどれか。  
[A] 密度がだんだん小さくなること  
[B] 濃度が徐々に薄くなること  
[C] 次第にある状態に達すること  
[D] 充実性が乏しく、熱意に欠けること
19. 文中の「潜む」の読み方はどれか。  
[A] ひそ [B] かが [C] しず [D] ゆる
20. 文中の「柔軟」の読み方はどれか。  
[A] じゅうだん [B] にゅうだん [C] じゅうなん [D] にゅうなん

## II. 読解 (55点)

- A. 次の文章の[一][二][三][四]を読んで、21～40の問いに答えなさい。答えは選択肢 [A][B][C][D]からもっとも適切なのを1つ選びなさい。(2点×20=40点)

---

## 【一】

ぼくの子どものころは、買い物をするにも、定価が決まっていないうい物が多かつた。それで、店の人とうまくなじみになって、買い物のやりとりをする要領が大事なことだつた。同じものを買うにしても、要領が悪く失敗したら、高い値段で買われてしまう。ふだんからのつきあいだつて、買い物のときになって、ものをいうのだつた。

これは、ある意味で、不平等なことであつた。同じものを買うのに、相手次第で値段が変わる。失敗すると、損になる。

いまでは、定価が決まっている。平等に、だれでも同じ値段で、買い物ができる。しかし、ときにはそれが、ちょっと味気ない(乏味)気がしないでもない。なによりも、要領を身につけようと、努力することがなくなった。店の人と関係を取り結ぼうと、ふだんから心がけることがなくなった。平等なかわりに、冷たい関係になってしまった。

何度か失敗して、だんだんと要領を覚えていくものでもあつた。その意味では、店の人というのは要領の先生であつた。(中略)

値段の交渉をするということは、買い手のほうでも、その値段へ意思を介入することであつた。与えられた定価のもとでの、買うか買わないかだけの判断ではない。そして交渉に参加したからには、たとえそれが高い値段であつたとしても、それは買い手の責任に属する。つまり、自分の意思で、自分の責任で、値段を判断する余地が残っていたのだ。

このことの逆として、自分で判断し、自分で責任をとる機会は、平等や公正の名のもとに、だんだんと少なくなつてきているのではないだろうか。さらにそれが、学校などで共同で買い物をしたりするものだから、ますます自分から遠くなつているような気がする。

どんなに平等や公正を保証された社会になつても、終局的に自分を守るのは、自分の判断と自分の責任だ、とぼくは考えている。そして、不平等で不公正だつた昔の買い物は、その判断や責任を訓練していたような気もするのだ。

ふだんからの関係に気をくばり、要領よくふるまうのは、ズルイこととされている。それでは、平等で公正にはならない。

にもかかわらず、不平等や不公正のなかで要領よくやつていくズルサ、そのことの意味を、もう一度、考えなおしてみてもよいのではないだろうか。要領を否定した制度は、人間の関係を信頼しないことで、平等が強制されているような気もするのだ。

- 
21. 文中の「ものをいう」の意味はどれか。  
[A] 楽になる [B] 役に立つ [C] けちになる [D] 勇気がつく
22. 文中には、「ちょっと味気ない気がしないでもない」とあるが、それはなぜか。  
[A] 不平等で冷たい関係になってしまったから  
[B] 店の人と関係を取り結ばなくてはいけなくなったから  
[C] 要領を身につけようと努力することがなくなったから  
[D] 値段の交渉をするのが前より増えたから
23. 文中には、「遠くなっている」とあるが、何が遠くなっているのか。  
[A] 自分と店の人との関係  
[B] 自分で買い物をする機会  
[C] 平等や公正を保証された社会  
[D] 自分で判断し、自分で責任をとる機会
24. 文中の「要領を否定した制度」の「要領」はどういう意味か。  
[A] 平等で公正な社会を作るコツ  
[B] 判断や責任から逃れるコツ  
[C] ものごとをうまくやるためのコツ  
[D] 苦労や努力をしないでやっていくコツ
25. この文章の内容に**合わない**のはどれか。  
[A] 要領よくやっていくズルサもわれわれには必要である。  
[B] 要領よくやっていくことは人間の信頼関係をこわすことになる。  
[C] どんな世の中でも自分で判断し自分で責任をとることが自分を守ることになる。  
[D] 買い物のやりとりのない社会では、人間関係は味気ない冷たいものになる。

## 【二】

「近ごろの若者たちは本を読まなくなった」と指摘されることがよくあります。なぜ大人たちは、若者が本を読まなくなったことをなげくのか。「本を読まなくなると、どんな悪いことがあるのか」「本を読まなくなって失われるものは何か」この問いをすこし展開して、「本を通じて得られるもの」と「本でなければ得られないものは何か」を考えてみましょう。

---

たとえば、本を通じて得られるものは、知識、情報、教養、楽しみ、興奮、感動など。それでは、これらのうち、「本でなければ得られないものは？」と考えると、何が残るでしょうか。今や電子メディア（電子媒体）の普及で、たいていの知識や情報は、本でなくても手に入るようになりました。活字メディアよりも数段はやく、しかも手軽にさまざまな情報を手に入れることができる時代になったのです。楽しみや感動、興奮にしても、映像・音響メディアの発達から、本でなくても深い感動や楽しみを得ることはできます。（ア）、こうしたものは、発達したAV機器によって本よりも迫力をもって伝えられる時代になりました。原作の本を手活字を目で追っていくよりも、大画面の大音響のもとで映画化された作品を見るほうが、興奮も感動もずっと大きくなる可能性だってあります。それでは「教養」はどうか。たしかに、テレビを見ても、コンピュータから得た情報によっても、あるいは講演会や大学の講義などを通じて、「知識」を得ることはできます。「教養」をたんに知識として見れば、なるほど活字メディアでなくてもよさそうです。

それでも本でなければ得られないものは何か。それは、知識の獲得の過程を通じて、じっくり考える機会を得ることにある。つまり、考える力を養うための情報や知識と格闘をする時間を与えてくれるということだと私は思います。他のメディアとは異なり、本をはじめとする紙に書かれた活字メディアでは、受け手の歩調に合わせて、メッセージを追っていくことができます。活字メディアの場合、読み手が自分の歩調で、文章を行ったり来たりしながら、「行間を読んだり」「論の進め方をたどったり」することができるのです。言い換えれば、他のメディアに比べて、時間のかけ方が自由であるということです。

文章を行ったり来たりできることは、立ち止まってじっくり考える余裕を与えてくれることでもあります。いかにも真実らしいせりふに出会っても、話しているときのように「そんなものかな」と思って十分吟味もせずに納得してしまわない。本の場合、そうしたいいかにも真実らしき自体を疑ってかかる余裕が与えられるということです。

26. 文中の（ア）に入れる言葉はどれか。

- [A]だから            [B]ただし            [C]しかし            [D]むしろ

27. 文中の「行間を読んだり」とはどういう意味か。

- [A]文章全体の大まかなあらすじをつかむ。  
[B]文面に表れていない筆者の真意を読み取る。  
[C]意味の分からない箇所を飛ばしながら読む。

- 
- [D]読み進めながら自分の考えを整理していく。
28. 文中の「そんなものかな」はどういう気持ちを表しているのか。  
[A]半信半疑      [B]納得      [C]関心      [D]感動
29. 筆者が考えている「電子メディア」の特徴はどれか。  
[A]有益な情報を、時間をかけず安全に入手できる。  
[B]正確な情報を、時間をかけず自在に入手できる。  
[C]詳細な情報を、時間をかけず確実に入手できる。  
[D]多様な情報を、時間をかけず簡便に入手できる。
30. この文章で筆者のいちばん言いたいことはどれか。  
[A]本物の教養とはたんなる知識のことではなく、本を読むことによるのみ得られるものであるということ  
[B]テレビやコンピューターとは異なって、本では受け手の歩調に合わせてメッセージを追うことができるということ  
[C]いかにも真実らしさをそのまま飲み込まないような思考力を養う機会が、本を読むことで与えられるということ  
[D]どんなに迫力があっても、映画化された作品を見るより原作の本を読むことのほうが大切であるということ

### 【三】

先日のケリー先生の日本語学ゼミで、日本の子どもの弁当を題材に日本文化を論じた論文を取り上げていました。日本の子どもが学校や幼稚園に持っていくお弁当のことです。まず、子どもの学校での昼食のとり方というのが、アメリカと日本とでは非常に違うので、給食（学校配餐）がないところでは、みんなが一斉にお弁当を持っていくというのが、アメリカ人にとっては少し驚きのようです。アメリカでは、お弁当を持っていってもよいし、学校の売店で買ってもよいし、お弁当を持っていった上でなにか買ってもかまいません。

そして、なによりもアメリカ人にとって驚きであり、この論文の主題となっていることは、日本の子どものお弁当がすばらしく手の込んだ芸術品の様相を呈しており、それが母親の腕の見せどころだ、という事実なのです。アメリカの子どものお弁当といえば、ポテト・チップの袋が1つ、チョコ・パーが1本、サンドイッチが1つにりんごぐらいなもので、母親

---

がことさらに手をかけることはまずありません。わたしがよくお世話になる先生のお宅などでは、両親ともに大学教授で忙しいこともあり、朝は子どもが自分で冷蔵庫から適当に食べ物をかき集めて持っています。

こういう伝統からすると、黄色い卵に緑のほうれん草、赤いさくらんぼなどで見た目も美しく飾り、おまけにりんごでうさぎを作るなどということは思いも及びません。そこからこの著者は、日本社会における「母親」という役割の重要性、お弁当の優秀さで母親の優秀さが計られること、母子の緊密な関係、そして、誰もが同じように素晴らしいお弁当を持たねばならないという集団主義、（ア）、日本文化における女のあり方などについて議論を広げていきます。

お弁当というものを、そういうふうには考えたことがなかったので、たいへんおもしろく感じました。しかし、ほんとうにこれは母親や女に関する日米の文化的差異から来るのでしょうか？わたしは、まず根本は食文化の違いだと思います。日本には、子どものお弁当に限らず、各種駅弁から始まって、高級料亭のお弁当まで、「お弁当」という芸術的食物を作る文化があるでしょう。アメリカにはそもそもそれが存在しないので、美しい子どものお弁当が生まれる余地がないのです。

そうだとすると、母親や女について考える前に、まず、なぜ日本にはこんなに美しい「お弁当文化」があるのか、ということの問題にせねばならないようですね。

31. 文中の「日本文化を論じた論文」の主題は何か。

- [A] 日本とアメリカとでは、学校の昼食のとり方が非常に違うということ
- [B] 日本には「お弁当」という芸術的食物を作る文化があるということ
- [C] 給食がないところでは、みんなが一斉にお弁当を持っていくということ
- [D] 日本の子どものお弁当が芸術品のようで、母親の重要な仕事だということ

32. 文中の「こういう伝統」とはどんな伝統か。

- [A] 芸術品のような弁当を作るという伝統
- [B] 子どもがお弁当を自分で作るという伝統
- [C] 母親がお弁当に手をかけることはないという伝統
- [D] みんながお弁当を持っていくわけではないという伝統

33. 文中の（ア）に入れる言葉はどれか。

- [A]ただ
  - [B]だが
  - [C]また
  - [D]それで
-

- 
34. 文中に「そういうふうに考えたことがなかった」とあるが、筆者が考えているのは何か。
- [A]日本の芸術的な「お弁当文化」
  - [B]日本社会での母子の緊密な関係
  - [C]日本社会での「母親」という役割の重要性
  - [D]同じようなお弁当を持っているという集団主義
35. 筆者は日本とアメリカとの子どものお弁当の違いはどこにあると思っているか。
- [A]日米の母子関係の文化的差異
  - [B]日米の食に関する文化的差異
  - [C]日米の給食に関する文化的差異
  - [D]日米の母親や女に関する文化的差異

#### 【四】

以前、企業の部課長クラスを対象としたセミナーの後の雑談で、上司の指示命令を部下がやり過ぎ（筛选）てしまうこともあるのでは？と話したら、ある大企業の部長からお叱りを受けました。「組織の中であって、上司から出された命令や指示をやり過ぎしてしまうなどということはあってはならないことである」しかし後になって、もっと話を聞きたいという人がやってきました。そして驚いたことに、やり過ぎのできない部下は無能であるとまで断言する人さえ現れたのです。（中略）

実際の企業を調査すると、「やり過ぎ」には重要な機能のあることが分かってきました。たとえば、業務量が非常に多く、忙しい職場では、上司の指示命令のすべてに応えることはもともと不可能なので、部下が自ら優先順位をつけ、上司の指示命令を上手にやり過ぎしながら、時間と労力を節約して業務を処理していくことをむしろ期待されていると言います。それができない部下は、言われたことをやるだけで、自分の仕事を管理する能力がないと低い評価しか得られないそうですから、世の中厳しいものです。

あるいは、管理者の人事異動が頻繁で、実際の業務知識に乏しく経験も浅い管理者がよく巡ってくるような職場では、その業務に長年従事し、職人としての知識をもつ部下にとっては、反論するの**も**ばかばかしい指示が時としてなされることもあります。しかも悪いことに、面と向かって上司の指示がいかにナンセンスなものであるかを部下が立証したとしても、それを受け入れる度量の広さを上司が備えていないことも多く、そんな場合、職場の

---

人間関係は不快が残るだけで終わることになります。「殿様が白と言ったら、鴉も白いんだ」と喚いた上司もいるそうです。これをバカ殿状況と呼んだ人がいましたが、こうした状況下では、的外れな指示は部下のやり過ごしによって濾過され、上司に恥をかかせずに、正当な指示に対する業務だけが円滑に実行されることになると言います。

つまり、組織の中における「やり過ごし」には、仕事の過大負荷や上司の低信頼性に対処して、組織的な破綻を回避するという注目すべき機能もあるのです。

36. 文中の「あるのでは？」はどの意味に当たるか。

- [A]ないだろう [B]あるだろう [C]ないはずだ [D]あるはずだ

37. 文中に「世の中厳しいものです」とあるが、その理由は何か。

- [A]上司に言われたとおりにやるのでは能力がないとされるから  
[B]時間と労力を節約して業務を処理するとあまり評価されないから  
[C]上司の命令がどんなものであろうと絶対に従わなければいけないから  
[D]業務量の多い忙しい職場では上司の命令すべて従うことは不可能だから

38. 文中の「そんな場合」とはどんな場合か。

- [A]上司の指示がナンセンスで不適切な場合  
[B]部下が職人としての知識をもっている場合  
[C]上司が部下の意見を受け入れようとしない場合  
[D]部下が上司の不適切な指示を立証した場合

39. 文中で部下のやり方として高く評価しているのはどれか。

- [A]上司に言われたこと以上のことをする。  
[B]上司に言われたとおりに実行する。  
[C]上司の顔色を伺いながら仕事をする。  
[D]上司に言われたことを選択しながら実行する。

40. 筆者がこの文章でいちばん言いたいことは何か。

- [A]組織の中での「やり過ごし」には重要な機能があるということ  
[B]管理者の人事異動が頻繁な企業での業務がいかにも大変かということ  
[C]業務における知識や能力よりも上司との人間関係こそが重要であるということ  
[D]上司の「バカ殿」ぶりが部下へ与える精神的苦痛がいかにも大きいということ

B. 次の文章の下線のついた部分を中国語に訳しなさい。(3点×5=15点)

記者：初めに、認知言語学とはどのような学問なのか、そこから話していただけますか。

学者：41. 認知科学は比較的新しい学問の領域で、分かりやすく言うと、「人間のmindを研究する学問」となります。「mind」を「こころ」と訳す心理学の一領域と受け取られてしまうのですが、見る・学ぶ・理解するといった人間の“mind”の働きをいろいろな方向から明らかにしようというものです。ですから認知科学では、心理学・教育学・哲学・言語学・脳神経科学・コンピュータ科学などいろいろな分野の研究者が集まっています。

記者：認知科学の研究にコンピュータ科学が入っているのは興味深いですね。

学者：そうですね。認知科学の発展にコンピュータが寄与したところは大きかったと思います。人間の“mind”がどんなふうになっているのか、コンピュータでモデルをプログラミングし、それをシミュレートすることができます。42. その応用として、たとえば鉄腕アトムのようなロボットを作り出そうと、人工知能の研究が盛んに行われています。ただ、認知科学で分かってきたことは、人工知能にもやはり限界があるということです。あらためて、人間の「かしこさ」を思い知らされることになりました。

記者：人間とロボットでは「かしこさ」の質が違うということですか。

学者：そうです。43. ロボットにいくらたくさんの知識をデータとして詰め込み、人間のルールを記号化して教え込んでも、人間と同じ「かしこさ」を持つというわけでないんです。人に対する教育も同じことです。たとえば、子どもたちにたくさんの知識を詰め込んだからといって、その子が「かしこくなる」とは限らない。人間の「かしこさ」は単に外からの知識を蓄積するだけではなく、自ら知識を生成することによってもつくられます。44. そう考えると、いまの学校教育、とくに日本のような教育が果たしてよいのか、疑問ですね。わたしも含めて認知科学者の間では、そういった日本の学校教育のあり方を見直そうという動きが起こっています。

記者：認知科学がコンピュータによって発展したというお話がありましたが、最近では学校でもコンピュータを導入するところが増えていきますね。コンピュータによって、先生の教え方とかカリキュラムもずいぶん変わってきたのではないのでしょうか。

学者：学校教育では新しいテクノロジーが出てくると、それを使って何かを「しなければならぬ」という発想が先に立つようです。そこから「コンピュータ教育」が開設され、操作法を学ぶカリキュラムになってしまう。結局、詰め込み教育なのですが、45. わたしは、

---

そうではなく、せっきやく最先端のテクノロジーが詰まったコンピュータがあるのだから、それを使って今まで「道具」がなくてできなかった教育を行うべきだと考えています。

### III. 作文 (25点)

46. 次の指示にしたがって、450～500字の作文を書きなさい。

在人生旅途中，有很多给予我们帮助的人，他们值得我们深深地感谢。在这些人当中，你认为最值得自己感谢的人是谁？为什么？请以“いちばん感謝したい人”为题材，写一篇作文。

注意：①自分でテーマをつけること

②漢字を使うべきところは漢字を使うこと

③「だ・である」体で書くこと